



雄武町

No.183 令和5年2月号

議会だより



Contents

- ▶ 緊急質問（11月臨時会）————— P2
- ▶ 冬の定例会（12月定例会・行政報告）— P3
- ▶ 一般質問（5名）————— P4-8
- ▶ 審議結果（12月定例会）————— P9-13
- ▶ 委員会レポート（委員会報告）————— P14
- ▶ その他採決結果・賛否の公表 ——— P15
- ▶ 平岡医師の再任を求める請願書報告—— P16-17
- ▶ 議会日誌・あしがき ————— P18

ふわふわの毛が雪の妖精のよう（シマエナガ・幌内）

■ 柳原浩之 最悪の想定を準備していたか

□ 町長
今回の感染拡大は最悪と思っていない

行政の後手後手の対応や交付金の使途に対する疑問、さらに町長の危機管理能力と洞察力のなさが明らかになり、町民の方々の命や暮らしに直結する行政の対応を検証するため、11月臨時会で緊急質問を行いました。

感染拡大時の対応について

問 感染拡大時の対策と原因究明は。

【対策室長】 対策は、国の方針が変わっておらず、町としても基本的に変わっていない。今回の感染拡大の原因は小さなお子さんを起点として、家族感染により広がったと分析している。

問 なぜ感染拡大時に検査キットを配布できなかったのか。

【対策室長】 陽性者登録センターからの検査キット取り寄せが原則であるのと、検査キットが品薄であったため短時間でまとまった数の入手は困難であった。

問 一番悪いことを想定をして準備しておかないと間に合

わなくなると2年半前から言ってきたが、最悪の想定を準備していたか。

【町長】 病院や高齢者施設で大規模なクラスターが発生するような状況が最悪であり、個人的感覚であるが最悪と思っていない。

問 国保病院が診療制限に至った経緯は。

【病院事務長】 職員、職員家族のコロナ感染により出勤制限の職員が多発し、通常の診療体制が取れないことと救急体制に万全を期すため、町長に伝え了承された。

緊急メッセージの発信と行動について

問 11月18日に緊急メッセージを発信しているが、町長は東京都と益子町への出張を継続している。危機管理に対する考え方は。

【町長】 東京に行く前日の14日に対策本部会議を開き、緊急メッセージの打ち合わせを

して、状況により発信することにしてきた。今回は公務を中止して緊急に帰町する必要な状況ではなかったと考える。

問 教育長も同じく益子町に行っている。教育長の危機管理に対する考え方は。

【教育長】 教育委員会の所掌事務は、いつ、何が緊急に起こるか分からない事もあり、すぐ対応できるよう教育委員による職務代理者を常設している。今回の出張期間は金曜日から日曜日までであり、出張2日前から当日まで学級閉鎖等には至っておらず、土日は学校は休業日であり感染による学校対策はなく、危機管理上、公務を中止するような状況ではなかった。

感染拡大時の対応マニュアルについて

問 感染拡大時の対応マニュアルの内容は。今回の緊急時どのように運用されたか。

【対策室長】 コロナ感染症対策行動マニュアルでコロナに

特化した内容になっている。

交付金の使途について

問 今回の感染症拡大時に検査キットを配布できなかった。交付金で買っておけば良かったのではないか。

【町長】 なかなか入手できなかった。12月の補正予算で用意する。

問 交付金の使い道が違うほうに行っている。町長の危機管理能力は。

【町長】 基本的な対策を町民の方にきちっとしていただくことが先決なのかなと考えている。

問 限られた予算をどのように運用するかがリーダーの資質だと思うが、今までの交付金の使途と今回の感染拡大がつながってくるが、ご自身で失敗したと思うか。

【町長】 私は結論から言っても十分、感染予防対策という部分ではやっているつもりです。



冬の定例会報告

行政報告（石井町長）

◎ 新年度予算編成について

令和5年度予算編成は町長就任にあたって掲げた「郷土愛を育み未来に夢と希望の持てるまちづくり」の実現に向けて、第6期雄武町総合計画の政策目標に掲げたまちづくりを展開していくため人件費、公債費、繰出金等を除いた16億5330万円の一財源を各課に枠配分した。

◎ 懸案事項における要望活動について

オホーツク圏活性化期成会

▼ 地方交付税総額の安定的な確保 ほか34件

高規格道路旭川・紋別自動車道早期建設促進期成会

▼ 国土強靱化の事業計画に基づく道路の橋梁、トンネル、舗装等の老朽化対策の推進ほか3件

◎ 新型コロナウイルス感染症対策について

・ 雄武町での新規感染者数

（北海道発表）

令和4年9月11日～
12月5日 計59人

・ 対策本部会議開催状況
計6回開催

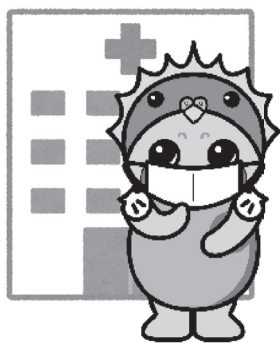
雄武町の
新型コロナワクチン接種率
(令和4年11月30日現在)

区分	65歳以上	12～64歳	合計
オミクロン株対応ワクチン接種者	9.9%	46.1%	32.0%

◎ 新型コロナウイルス感染症拡大に係る国保病院の診療制限について

・ 国保病院の一部診療制限
11月14～21日

※看護職員や家族の新型コロナウイルス感染症により出勤制限が生じた職員が多発し、通常診療体制及び救急体制に万全を期すことが困難な状況となり、やむを得ず一部診療制限を行ったもの。



行政報告等にかかる質疑応答

長野 コロナが蔓延する中、関係部局の課長が海外旅行の決定をした。この時期に担当部局がないことの現実は妥当だったか。また保育所、学校関係が休みになる中、教育長も出張していた。親は学校ではなくて教育委員会を見ている。危機管理としてどうだったのか。

町長 管理職が不在時の指揮については副町長と総務課長が当たるという内容の下で決定した。

教育長 私は私なりに仕事を全うしたつもり。今後の行動についてはよく考えながらの決断をしたい。

柳原 小規模企業創業支援助成金の内容は。

産業振興課長 新たに創業する企業を支援するもの。施設建築2件（カフェ、ネイルサロン）。

柳原 「二十歳の集い」、他の自治体では18歳でやっているところも実際あると思う。若干^こ齟齬が出てくるが、対策は。

教育長 この辺では大体が二十歳で行うと聞いている。

遠藤 新たに自主防災組織を設置した自治会はどこか。
住民生活課長 宮下町自治会です。

遠藤 新型コロナ支援品支給事業、町民から「要望したが頂けなかった」という声を聞いたが。

コロナ対策室長 無症状者や濃厚接触者は最低限の買い物が認められている。支援者がいる場合も含め、買い物が可能な方には支援品の支給を行っていない。感染者増で在庫不足になることを防ぐため。個々の事情については状況に応じて判断している。

遠藤 在庫不足はそもそも起こってはいけない。十分に届くよう対応していただきたい。

嶋村 公営住宅空き家41戸、今後一般町有住宅への転用は考えているのか。

税財管理課長 建て替えする住宅を残してリフォームしたり、ゾーンとして区切って転用してきた。次は末広一区団地で考えている。

嶋村 技能実習生の住環境として公営住宅を使うような政策誘導は。今後、夫婦や家族単位で就労する可能性がある^と聞く。考え方は。

町長 外国人実習生の関係も含めて検討していきたい。

病院や医療への声聞く「町民公聴会」開催を

公聴会の前に国保病院運営委員会で検討する（町長）

病院通院バス運行基準の緩和について

——病院通院バスへの民間クリニック通院者も乗車できるよう早期に検討を進めるとの9月議会での答弁であったが、病院事務長の説明では、検討項目が多くあり、町はやむを得ないと受けとられかねないが。

町長 検討事項を部内協議し年度内に結論を出し、新年度から実施できればと考えています。

雄武町国保病院の現状について

——町民の国保病院への不信感について、多く聞かれるのが①頻繁な医師の入替②病棟の看護体制に対する町民の不満③病院の診療ミスが非常に多い④医師の非常に高慢な診療対応の4点です。町長は町

民の国保病院に対する不信感をどの程度認識しているか。

町長 評価する人もいれば、不信感を持つ人もいます。町民の間でも色々意見があるので私から答えることはできません。

——11月14日に国保病院より診療制限とコロナ検査休止の告知チラシが出ました。他方、民間クリニックはコロナ検査を継続しました。町の基幹病院としての任務放棄だと町民は怒っているが。

町長 救急対応、透析治療、看護体制を考慮し、院長が判断し私が決裁しました。

——本議会に国保病院会計の補正予算が上程されており、診療報酬1億1200万円の減収の補正予算で、一般会計の繰入額（赤字）が過去最大の4億8000万円です。過

去10年間の赤字額が資料として出されていますが、実に41億4200万円と膨大な赤字額です。これは事務方サイドで経営努力しても解決できない金額ではありません。私が議員になって議会でよく聞く意見が、病院経営・医師問題は難しい、議会が口を出すべきでない。問題点を放置した結果、今回のような事態を招いている。この際、国保病院及び雄武町の医療についての町民の意見を聞く町民公聴会を開いていただきたい。町民の生の声をもとに病院の改革に取り組みべきと思うが。

町長 公聴会の前に、国保病院運営委員会がありますので、その中で検討していきたい。

——町長は、町民世論を恐れて町民から国保病院に対する意見を聞く場を設けなかったと理解しますよ。



町長 病院の運営委員会の中で町民の意見も聞いてやっていきたいと思えます。

激変する町内酪農・畜産農家の経営環境について

——町の基幹産業である酪農・畜産業が、飼料価格の高騰・生乳生産抑制・畜産物価格の暴落・燃料等の高騰と今までに例を見ない経営危機に直面しています。町としての認識は、

町長 町としても何らかの対策を打っていかねればと部内協議をしております。

——平成28年3月に雄武町農業協業法人設立促進条例が制定され、その後、3大法人が設立され、生乳生産の大幅増、新規雇用の拡大が実現しております。国の生乳生産増加計

面に沿って10、15億円の大型投資を行っており、資

金計画も生乳生産増、畜産物価格、飼料価格も計画時の価格で計画しており、資金計画に大きな問題が生じています。資金繰りをどう支援していくか喫緊の課題ですが、平成26年のホタテ被害時に、漁協に5億円の無利子の緊急支援を行った例もあります。それに匹敵する緊急事態と思えます。

町長 町としても、固定資産税の補助、また農協とも協議し、資金の平準化、利子補給等、早い段階で検討したいと考えています。

しまむら 義文 議員

雄武町の観光振興について

— 観光振興について質問します。雄武町観光マスタープランには、体験型プログラム等のプランがありました。令和4年度が最終年度ですが、推進委員会は近年開催されているのか。

産業振興課長 最後に関われたのは令和2年度までで、令和3年度はコロナ禍の関係で開催しておりません。

— 最近、観光協会の活動が広報等で多く見受けられ、観光協会頑張っているなど感じております。そこで、観光マスタープランの評価と来年度からの計画はあるのか。

産業振興課長 今年度が最終年度になるので、まず総合評価を行うこととしております。時期については、現在各

団体にマスタープランに係る実施状況等の調査を行い、それらを取りまとめ、1月中旬に評価を行う予定です。また並行して、次期の計画を策定するための事務に移り、令和5年度からの新規計画として考えています。

— 十勝管内清水町は、町長を先頭に全町挙げて民泊に取り組んでおられます。町長ご自身も民泊をされておられますが、どのように思われますか。

町長 私は今年から民泊を始めたのですが、民泊をするにあたり色々課題があり、その部分を検証しながら町内に広めていけたらなと思っています。ただ、全く知らない人を宿泊させることに抵抗感があるのかなと思っています。今年5件しか来られなかったが、都会、特に東京、関西周

辺から来ていただき、環境が全然違うので非常に良かったとの評価と反応があります。そういう部分も含めて今後広めていきたいなと思っています。

— 日の出岬キャンプ場について伺います。利用者数、収入は昨年より伸びております。そこで最近キャンプカーでの宿泊が増えていると聞いております。ただ、キャンプ場に対して利用額を設けていないとのことですが、今後どの様な方向性を持っておられるか。

産業振興課長 日の出岬キャンプ場は素朴なキャンプ場として売っています。確かにキャンピングカーは最近増えてきておりますが、キャンピングカーが増えることで駐車場が埋まってしまうことが考えられるというのは部内でも

話しています。これらも次期マスタープランで皆さんのご意見も伺いながら、将来性を見て検討していきたい。

— 日の出岬センターの整備について、2年前の質問で町長は「調査検討する」と回答されましたが、どのような方向に進むのか。

町長 建設課に修繕をした場合の費用積算をさせたところ1億円とのことでした。今後は取り壊す方向で検討しているところですが、これも、日の出岬整備構想の中でマスタープランと合わせて解体後の跡地利用を検討していきたいと思えます。

— 日の出岬開発構想の中で、ホテル日の出岬を核とした体験滞在型の観光ということもあるので、なるべく早く解体していただき跡地利用も今後も見据えて検討していただきたいが。

町長 当然解体ということになれば、キャンプ場にするとか、作る作らない等も合わせて、日の出岬全体を含めて考えて行きたい。

旧日の出岬センター、解体し跡地利用の検討を

取り壊す方向で検討、日の出岬全体を含め

跡地利用考える(町長)



みぞた まさし 溝田 昌志 議員

文教地区基本構想策定事業の進捗状況は

教育長が責任をもって原案を作成する（教育長）

文教地区基本構想策定事業の進捗状況について

— 令和4年度の雄武町文教地区基本構想策定事業の策定に係る会議の詳細は。

教育長 文教地区構想は、い

きなり委託するのではなく、教育委員会として基本的な考え方をまとめた基本方針が必要だと判断し、現在取り組んでいる。教育長の責任のもと教育現場の責任者（小中学校の校長）や教育相談員、道教委、義務教育指導監といった教育の専門家の意見を聞きながらまとめている。それに基づき、基本方針は最終的に教育委員会での合議で決定することになる。

— 雄武町教育委員会会議規則における会議の公開の原則にはあたらないのか。

教育長 教育長が責任をもって原案を作成するので、責任や根拠のないものを示して事業実施するものではない。今年度中に方針を作り、来年度の基本構想を策定するため、

様々な意見を取り入れながら、どんどん進めていく予定。

新型コロナウイルスによる学級閉鎖への対応

— 保護者や児童生徒を安心させるための対策は取っているのか。学校で感染が発生した場合の対応リーフレットを配ったとしても1回のみ。保護者はいきなり「明日から学級閉鎖」と言われて困惑している。

教育振興課長 確かに（学校・学級閉鎖の）連絡は迅速に対応しなくてはならないが、急に明日からは致し方がないと考えている。判断基準は国のガイドラインや道教委の通知

があり、いろいろな解釈が出ている。

高齢者交通費助成について

— HPには高齢者交通費助成の記載があるがその運用は分かりづらい、不公平だという声がある。雄武町高齢者交通費助成要綱では、基本料金相当分を助成券で運転者に支払うとあるが、HPには説明がない。町の考えは。

福祉給付課長 交通費助成のHPの内容は簡略であり、確かに利用者には分かりづらい点や情報不足がある。手続きの際には窓口で使用方法等を説明していたが、至らない部分があった。今後、周知内容を見直すとともに、窓口で丁寧な説明に努めたい。現在、来年度からの助成券の交付枚数見直しを検討しているの

いてもあわせて検討していく。

オコツナイ川とポンオコツナイ川の遊歩道の雑草処理について

— 遊歩道の雑草がひどく設置されたベンチも利用できない。激しく景観を損なっている。ハザードマップでもオコツナイ川の南東側の斜面は崖崩れ危険箇所にもなっている。町の美化と住民の生活の質の向上のための対処計画は。

建設課長 建設課が事務局となり、ある程度の準備は整っていたが、事務の遅延から組織設立ができず、美化活動を実施することができなかった。維持管理組織を早期に立ち上げ、令和5年度には美化

活動が実施できるように準備をしたい。

町長 私も確認はして、維持管理組織を立ち上げることは聞いていた。日陰にいくと非常にぼうぼうということを確認している。

— 日陰に行ったら草ぼうぼうではなく、どこもかしこもぼうぼうです。私もボランティアでやります。町外からの職員の方々も増えてきているので、町民との触れ合いが、広くボランティアを募ってやれば楽しく作業はできる。ぜひ雑草刈りのときには声をかけてください。



さとう やすし 佐藤 寧 議員

感染拡大時の対応について

— 感染拡大時の危機管理と情報の共有は。

町長 感染拡大になる前に、数回、対策本部会議を行い、実際の危機管理ということも情報の共有を行っている。

— 地域的特性から事前に検査キットを購入しておき、町民の方々に配布する体制を取るべきだったのでは。

町長 道が検査キットを配布していることや、町内で購入できること、簡単に町として購入できなかった点から、用意できなかった。

— 検査キットがなくて町民の方が困っていたと聞いている。町長として反省をしていないのか。

町長 迷惑をかけたことは事実であるが、基本的にコロナが3年経過し、自己防衛を考えていかなければならない。

新型コロナウイルス感染症対策行動マニュアルについて

— 令和2年9月に策定して以降、一切見直しをしていない。「安心感の持てる福祉のまち・雄武」「保健・医療の充実」を掲げながらなぜ、進化させないのか。

町長 放置しているわけではなく、内部的に取り扱っていることは変わっていないので変えていない。

— 令和3年6月の一般質問で「想定しても想定外が起きる。対策会議でしっかりと準備してください」との問いに「ケースバイケースでしっかりと再検討する」と当時の課長

は答弁している。何もしていないではないか。

対策室長 マニュアルは更新されていない。速やかに更新すべきであったと反省している。

空き家対策について

— 令和2年より空き家対策協議会が設置されているが、実施状況と成果は。

建設課長 令和3年3月に1回、令和4年2月に書面会議を開催し、雄武町空き家対策計画がまとまった。

町長の選挙公約について

— 6月の一般質問で、高速医療バスの実用実験を年度内に実施したいと答弁している。残り3か月、現在の状況と実施時期は。

町長 議会答弁で年度中という話だったが、名寄市立病院と話をしているがいろいろと調整ができなく、できれば令和5年度の早い時期に実施していきたいと考えている。

— 高速医療バスを公約に掲げて当選したのに、時間だけが経って、町民の方々に裏切っている。「嘘つき町長」と言っている方もいるがどう思うか。

町長 町民の皆様にはわからない部分がある。私なりににはそれなりにやっていると思っております。

— 町長は全て先送り、具体的にどうするのか。

町長 実証実験はやる。令和

5年度の連休明けには実証事件をする予定。

— 国保病院の再生は町民の強い要望であり、最重要課題として必ず実現すると掲げていたが、現状は。

町長 常勤医師を確保しているのが最重要課題であると思っている。経営問題も今後取り組んでいきたい。

— 町長の考える国保病院の再生はお医者さんが2名いれば再生という認識か。

町長 必ずしもそうは思っていないが、そういったふうになるよう努力する。

嘘つき町長と言っている方もいるがどう思うか

町民の皆様に分からない部分がある

それなりにやっている (町長)



やなぎはら ひろゆき 柳原 浩之 議員

一般会計補正予算（第8号）【主な内容】

・家計応援事業補助金（家計応援券）	4480万円
・町長交際費	40万円
・国民健康保険病院事業会計繰出金	1億3000万円
・ふるさと応援事業謝礼	4500万円
・光熱水費（小学校・学校管理費）	958万2千円



12月 定例会 審議結果

家計応援券補助金（家計応援券）にかかる質疑応答

Q佐藤 家計応援券の配布、このようなコロナ禍においては時限的な金券の配布が続いていくと思う。大阪府豊中市ではデジタル家計応援券を使って利便性が向上している。IT格差は気になるが、そういったツールを使って生活せざるを得ない状況になっていくと思うが、産業振興課の考えは。

A産業振興課長 今回の家計応援券についてデジタル化の議論は特に行っていない。ただIT化関係はこれからもきっと避けて通れないと思っている。使える環境を作っていくためには産業振興課だけでなく、町全体で考えていく必要がある。

Q佐藤 家計応援券の発送について、郵便局は土曜日の配達をやっておらず遅延が起こる。ヤマト運輸との料金比較やスピーディな配布への検討はしなかったのか。

A産業振興課長 価格比較のうえ郵便局に決定した。配達への対応の比較はしていないが、配達員の人数から郵便局のほうが有利と考える。

Q柳原 家計応援事業補助金、今回は燃料高騰等で1万円が配布され、その中から1千円だけを飲食店等に配布している。どうせやるのであれば思い切って予算を2千万円増加し、1万5千円を配布して、そのうち5千円を雄武町の飲食店を守るために使っていただく発想はないのか。この件について修正動議を出したかったが、他の議員が必要ないとの考えであったことから、意見として言わせていただく。

A産業振興課長 家計応援券については今年度3回目、その時々状況を見ながら行っている。今回は商工会からの要望に基づき1千円分を飲食に回したが、更にそれよりも使っていただくことは想定しており、呼び水になるような形で考えているもの。

提言 柳原 雄武町の場合、飲食店が無くて昼食難民も出ているような時がある。以前はスナック等も盛んで活気のある町だったと思う。店が減っていくと衰退していくのか考えるのも行政の仕事だ。私は基本的にはこの「ばらまき政策」は嫌いだが、そうは言いつつも守るべきところは守らなければならない。町としてどう商工会や飲食店を守るのかを考えていっていただきたい。





町長交際費にかかる質疑応答

Q 柳原 入院が減っていることは非常に良いことだが、キャパシティがあるのにあえて雄武町を選ばないというのが一番の問題。噂だが「手のかかる方を受け入れない」「5人で打ち切ってそれ以上は受け入れない」と実名まで聞いた。この限りなくグレーな噂についてどう思うか。

A 病院事務長 「5人以上の方を受け入れない」というのはあり得ない。今年6～8月は入院患者が一桁という時期はあった。それぞれ医師には専門領域があり、診療も細分化されている。専門に診てもらわなければならない部分は医師同士の連携を図りながら送るといった形はあると思うが、無下に「5人までしか入れない」ということはあり得ない。

Q 柳原 専門医を紹介してもらい治していただくのが一番良い。だから雄武町の病院にずっと入院患者が増えるのだけを追及してはいけない。でも昨日聞いた話だと結局、手のかかる方を受け入れないという。それは町立病院としての姿勢を疑ってしまう。その辺で町民は「この病院は大丈夫なのか」と言っている。収益が出ないとダメだというのはあるが、実際問題、地方の病院は非常に厳しいというのが全国的な問題になっている。やむを得ない部分も実はあると私は思っている。しかし病院改革は絶対に必要なので、町長がリーダーとして考えていかないと前に進まない。真剣に考えていただきたい。

A 病院事務長 実際に末期で在宅が難しい方や、診るのが大変な状況の方も入院されている。その後に関しても併設の老健があるので、ご家族の方が家に戻してもという部分は老健への移動を提案することもある。「手のかかる方を受け入れない」といったことはあり得ないと考えてる。

Q 柳原 町長交際費 40 万円増、昨年度と同じ予算のはずだが増額の理由は。

A 総課課長 昨年度同様の 140 万円を当初予算で計上していた。今年は各種セミナーや講演会が再開されたこと、医師の確保に町長自らが面談や関係機関への働きかけを行っていることに伴う関係経費の増、栃木県益子町及び佐賀県武雄市との交流に関する食材提供の食材費価格上昇などのため、予算に不足が生じると見込まれる。

Q 柳原 食材提供の詳細は。

A 総務課長 益子町及び武雄市にこちらから訪問した際、交流会を開催していただいている。この交流会にあたり、町から魚介類などを提供している費用を交際費から支出している。雄武町で開催される「ふるさとふれあい交流会」の際には益子町や武雄市の方々をお招きするが、その際には向こう側からも食材提供をいただいている。

Q 柳原 町長交際費の使途が知りたい。情報公開が資料請求でお知らせいただけるのか。

A 総務課長 町長交際費については適切に支出している。議会からの資料請求等があれば対応する。

簡易水道事業特別会計補正予算 (第2号)

【主な内容】 ・浄水場管理委託料 250 万円

Q 遠藤 浄水場管理委託料 250 万円増の理由を詳しく説明して欲しい。



A 上下水道課長 主な理由は電気料の高騰によるもの。今年4～12月の燃料費調整単価が大きく増加している。青葉第2浄水場と沢木浄水場の高圧分だけで30万キロワット以上の利用があることから、250万円程度増加している。

国民健康保険病院事業会計補正予算（第2号）

【主な内容】	・一般会計からの運営補助金	1億3000万円
	・入院患者数の減による収益的収入	-6267万5千円
	・外来患者数の減による収益的収入	-4932万5千円



◎**嶋村** 事務方としては非常に苦しい補正予算。病院の本来基本的な業務である入院収益が6200万円の減、当初計画から42%の減少という数字。外来収益も同様に30%減、医業収入トータルの計画に対して36%も収益が減る補正予算となっている。私はそもそも当初予算が非常に無理のある数字だと思っている。昨年度も4億5千万円の一般会計繰入があったのに本年の計画は3億5千万円の繰入という計画、事務方はこういった計画しか立てざるを得なかったという状況はまさしく危機的な状況と言える。本年の一般会計繰入額は4億8千万円、過去最高額である。平成24年から令和3年までの一般会計からの繰入額が41億4200万円、これを平均すると10年間でずっと4億以上の繰入額が続いていることになる。昨日の一般質問で町長は公聴会を開かず病院運営委員会でやっていくと答弁したが、町長が就任してから病院運営委員会は何回開かれたのか。また組織の設置規定はあるのか。平成15年に病院が開設して以来、運営委員会はあったと思うが、それは全部事後報告で承認してもらおうような「町の追認機関」だと思う。今までのあり方からいって、病院改革に向けて新たな指針が組織から出てくることは考えられない。

▲**病院事務長** 病院運営委員会は今年度3回開

催している。コロナ以降、停滞して会議が開催されなかった時期もあるが、基本的には議会前の年4回開催している。診療時間外の開催時には院長も加わり、病院の状況について意見交換を行っている。良い話もあれば耳の痛い話もあり、直近の会議時も院長出席の中、かなり手厳しい意見もいただいている。今後に向けての院長の考え方も話している。国保病院の設置等に関する条例の中に委員会設置が謳われており「町長の諮問に基づき病院に関する重要事項について審議することができる機関」とある。

▲**町長** この運営委員会の中で今回の議会のことをきちんと話し、今後の改革に向けて進めていきたい。

提言 **嶋村** 石井町長の国保病院の改革に対する真剣味が足りないと思う。自ら町長選挙立候補時のその政策公約「病院の再生を図る」ということが、実際3年間の中で具体的な行動が取られないうちに、今回、平岡医師の再任問題が起きた。その後の対応を見ても、議会答弁等を見ても、真剣にその病院の改革に取り組むという姿勢が非常に感じられない。私はこの補正予算には反対する。

◎**佐藤** 補正予算の説明があったが、一般の信用組合などに行き、この計画書なり説明書を持って「お金を貸してくれ」と言って、借入することができると思うか。

▲**町長** 貸付については、一般企業では経営者の説明という部分も非常に重要視される。ただ、これだけマイナスという部分では非常に難しいと思う。

◎**佐藤** そのとおり、借入できずに「潰して

ください」となる。私もずっと町長選の公約含め3年あまり病院経営に対する姿勢を見てきたが、一体どこまで病院を良くしようとか、どこまで内部を見ているのかというのが甚だ疑問な点がある。やはり町民から生の声を聞いて、委員会ではなく公聴会を開いて、町民がどう思っているかを確実にフィードバックして、町長自身がメスを入れていく姿勢が必要だと思うが。

▲**町長** やはり病院運営委員会もあるので、その中で公聴会の関係も検討していきたい。

教育長任命についての 討 論

◎佐藤 雄武町の子ども達の学力を上げるということで公設塾の話が出たが、これは総合計画の後期実施計画書の「総合型学習塾調査研究事業」の中で、この総合型というものの中に雄武町の子ども達の学力を上げる何かが隠れていると考えているのか。それに基づいて教育長と二人三脚で雄武町の子ども達の学力を上げていく考えか。

▲町長 総合型というのは、基本的にこれからの社会に順応していける子ども達を育てていこうということ。思いと実施する部分では多少異なってくると思うが、ある程度方向性が一緒で、子ども達も学力並びに心の教育も同時に行っていきたい。

◎佐藤 3年間教育委員会の姿勢を見てきたが、昨日の一般質問答弁も私は不満足だった。しかし仕方ないというところはある。子ども達の後ろに隠れているのは保護者で、雄武町の場合は保護者が教育委員会を見ている。雄武町の子ども達はぬるま湯の中に浸かっているところがある。都市部の子ども達に比べると圧倒的に学力は低く、体力面も田舎育ちだからあるかと思いきや、歩かないので体力もない。肥満率も非常に高い。長い目で見ると、その子達が町内に残っていくと糖尿病の予備軍になっていく。そういったところも含めて、根本的に何らかの手立てを打っていかねば学力は上がらない。ここに来て世界が凄く大きく動き始めていて、今の子ども達が社会に出る頃にはとんでもない世の中になっていると思う。その中で生きていくには、もうちょっと厳しさというのが必要になる。そういったものを教育長とどこまで膝を交えて話しているのか。

▲町長 学力の改善は非常に難しいが、やり方だと私は思っている。子ども達が興味を持って勉強したくなるような、特に低学年のうちは遊びや体験から学んで自分から見つけていく、本来であればそういうふうにしていきたいと考えている。教育長とは2年前くらいから話しており、この塾の関係は教育長も同じ考え方でやっていこうと進めてきており、ブレないと思う。

反対討論：柳原

高校生奨学金条例から豊田教育長の姿勢は教育長としてなっていないと思っている。

コロナ対応のマニュアルにも教育長の名前は載っているが、町の三役として町長並びに管理職等に適切な助言もできないし、とても三役としての役目を果たしていると思えないことから、私は教育長の再任には同意しない。

反対討論：長野

人事案件に反対するというのは非常に重い。過去の町長達は「こういうことで再任したいのだ」と足を運んで来た。一番苦心してやられているのは、やっぱり行政の中でどういうふうにタッグを組んでやっていくかと伝えるお願いである。町長の説明は響いてこない。議員協議会があったにもかかわらず、こういうことで何とか再任をしたいという町長の思いがない。

町長就任以来、ボタンの掛け違えばかりである。要するに中身を分からないで、ぶち上げて、先行してやってしまう。話しているうちに色々な案件が出て、聞いていないことまで出てくる。豊田教育長は良い人で人柄も分かっているが、今回のその任命の仕方が私の中には響いてこない。そこまで質問して賛成という話にもならないので、私は反対させていただく。

賛成討論：嶋村

私は教育長とは文教地区再編整備計画について何度か話をしている。問題点が明らかになってきているが、来年以降から小中一体校の新設あるいは町民が待ち望んでいる体育施設の建設に向けて非常に重要な時期に入る。

豊田教育長には引き続き任務を継続して文教地区再編計画の実現に努力していただきたい。



起立多数により原案同意

賛成：福原、嶋村、溝田、遠藤、金田、佐藤
反対：長野、柳原

雄武町教育委員会教育長の任命について



任命同意を求める者 豊田 通敏 (61 歳)

任期 令和4年 12 月 23 日～令和7年 12 月 22 日

令和4年 12 月 22 日をもって任期満了となる豊田教育長について引き続き任命しようとするもの。

教育長任命についての 質疑

Q長野 町長にとって特別職の大事な人事案件だが、先日の議員協議会において任命説明が無かった。今、補足説明があったが、通り一遍の内容だった。町長が就任して人事の件で一番最初に仕事をしたのが副町長の解任だった。その後、12月に今の教育長の任命をされ、再度任命をしたいという内容。教育長の今日までの実績の評価をどう捉えているか。また今後、教育長に求める教育行政は何か。

A町長 これから文教地区基本構想や構想中のGIGAスクール関係もある中、色々とお教育長としての任を果たしている。先般、西紋ブロック教育委員の会議においても非常に信頼が厚いと感じた。今後は子ども達の学力向上を含めた公設学習塾を考えていく上で、日々打ち合わせをしており、ますます期待が持てると思っている。

提言長野 教育長の人物評価をするつもりはない。しかし、どうも私と町長の感覚がちょっと違うと考えている。人事についてのことなので、私はそれ以上申し上げない。

Q柳原 今回の教育長人選は他に候補者がいたのか。以前から申し上げているが女性参画について、女性のほうが発想も豊かであり色々な面で私は非常に評価している。豊田教育長の6年間で一番印象に残っているのが高校生奨学金条例。当時は議論の時間が短いと喧々諤々やらせてもらったが、それを強行突破されて採決の上決定した。あの時問題になった「就職者に一円のお金も出さなかった」件は2年後に「就職者に10万円のお金を出す」ことになり、私はこの教育長はダメだなと自分の中で判断した。今の町長の説明では、教育長には優れた調整能力があるというふうにおっしゃっており、私とそこで齟齬がある。人選する上で、消去法で豊田教育長なのか。色々な人がいた中で選んだのが豊田教育長なのか。

A町長 多数の中から人選した訳ではなく、豊田教育長と事前に色々な意見交換を行った中で私が決めた。

Q柳原 町長がいつまで町長をやられるかは分からないが、その後の計画等を含めてそういう考えはないのか。唯一、議会議員が関与できるのが副町長と教育長の人事。良い悪いを判断するのは私達だと思っている。そんな中、しっかりした人を見ていただかないと、途中でいなくなってしまう。私は豊田教育長よりも良い人がいると心の中で思っている。消去法でやるなら結局良くならない。

A町長 私の思いと教育長の思いは一致している。人間なので100%はないと思うが、今までの経験やオホーツク教育局の信頼等を兼ね合わせて決定したことである。

提言柳原 私は豊田教育長の性格は良いと思っている。でも優れた調整力はないと思っている。



道内視察レポート（委員会報告）

令和4年10月25日（火）～26日（水）

総務文教常任委員会

出席委員

溝田委員長、佐藤副委員長、
嶋村委員、遠藤委員、金田
委員、柳原委員

同行者

橋詰議長、山崎議会事務局
長、内宮書記

【池田町郷土資料館】

池田町郷土資料館は、平成24年3月に閉校した旧高島中学校の校舎を活用して、平成29年5月に開館した施設です。池田のまちの歩みや昔のくらしを「見て・学んで・楽しめる」資料館です。開拓から昭和にかけての生活用品や農機具、ふるさと銀河線や旧国鉄の鉄道資料、町内の遺跡から発掘された土器や石器、池田町や高島地区などの歴史がわかるパネル展示など、大人も子どもも楽しめる資料館です。

昨年の入場者数は260名、今年は10月現在、ゴジラファイ

ギュアなどの特別展示等があり、300名を超えています。冬期間は休館して経費を節減しています。開館にかかった経費は、体育館の解体等を含めて5400万円程とのことでした。

視察所感

雄武町の郷土資料は、図書館「雄図びあ」の限られたスペースに少数展示されているのが現状です。

先人の苦勞と知恵が詰まった資料を後世に残すことも大切なことと思います。町内では、閉校となった旧小学校の利活用が問題になりつつあることから、郷土資料館としての活用も一考かと感じられました。

産業厚生常任委員会

出席委員

福原委員長、遠藤副委員長、
長野委員、嶋村委員、金田
委員、柳原委員

同行者

橋詰議長、山崎議会事務局
長、内宮書記

随行者（所管担当者）

前田福祉給付課長

【白糠町子育て支援事業】

産業厚生常任委員会では、まちづくりは子どもから旗じるしに「子育て応援日本一の町」を目指す白糠町保健福祉部健康こども課への視察を実施した。

白糠町は人口7284人、65歳以上が3148人、高齢化率が43・2%、釧路管内でも高齢化率が上位に位置し、最も多い年齢層は団塊世代で、地域からの若者流出と少子高齢化が町の課題となっている。

白糠町は長年の厳しい財政状況からなかなか子育て支援に取り組むことができない背景があったが、行財政改革などにより近年、やっとな力を入れていることができるようになった。白糠町は全国屈指の長さ

を誇る日照時間を活かし、町内80を越える太陽光発電施設が生み出す再生可能エネルギーからの収入を財源として子育て支援に充当している。

太陽の恵みにより子育て支援が実現していることから、太陽の手子育て支援とネーミングしている。白糠町では子育てと教育は一体であるという考えのもと、9年の小中一貫教育を行っている。

また、18歳までの医療費や保育料、給食費の無料化などの経済支援や白糠高等学校の校内に公営塾を設置する等の環境整備も同時に進めている。

結婚から出産、産前産後と0歳から15歳までの小中一貫教育で切れ目のない支援を行っているのが特徴。こういった連携した取り組みが功を奏して、他の地域から62世帯が白糠町に転入し9世帯が家を建てる成果につながっている。

具体的支援策は出産祝い金の支給（町内商品券での支給）、18歳までの医療費、保育料、学校給食（高校も含む）無料化があげられる。高校給食の無料化は2年前から行っ

ている。他には、乳幼児や小学生などの児童を有する子育て中の町民の方を対象として、「児童の預かりの援助を受けることを希望する方」と「援助を行うことを希望する方」とをマッチングする相互援助活動のファミリーサポート事業も好評。10名程度の支援登録者数がある。

視察所感

雄武町子育て支援事業新生児特別給付金は、雄武町でも令和2年4月から実施され10万円の給付金が支給されているが、18歳までの医療費は初診1件につき医療診療の場合580円、歯科診療の場合510円の一部負担があるため完全な無料化と言えない背景がある。北海道全域で見ると179市町村のうち120市町村の約7割が初診料なしで完全無料化としていることから、子育て支援の一環として今後の検討課題である。また、雄武町においても雄武高校に通学する高校生や父母から高校給食の実施の声もあがっているため、その点についても併せて検討課題としたい。

その他の採決結果

11月臨時	豊年橋外修繕工事請負契約の変更（専決処分） 事業効率化のため(次年度予定の修繕箇所を施工する)工事規模の変更及び原契約の増。(＋92万4千円)	報告
	一般会計補正予算（専決処分・第6号） 電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金の増など。(＋4795万3千円)	可決 (異議なし)
	雄武町職員の給与に関する条例及び雄武町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正 雄武町特別職の職員の給与に関する条例の一部改正 雄武町議会議員の議員報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正 給与の引き上げについて人事院勧告に準拠するため。	可決 (異議なし)
	一般会計補正予算（第7号）ほか特別会計補正予算4件 職員給の減、一般職管理職手当の増など。(5会計／-1149万7千円)	可決 (異議なし)
12月定例	簡易水道事業特別会計補正予算（第2号） 浄水場管理委託料の増など。(＋392万3千円)	可決 (異議なし)
	介護保険事業特別会計補正予算（第4号） 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定委託料の増など。(＋299万6千円)	可決 (異議なし)
	第6期雄武町総合計画後期基本計画 条例の規定により議会の議決を求めるもの。	委員会付託
	固定資産評価審査委員会委員の選任 任期満了となる委員について引き続き選任しようとするもの。 (門傳富男・任期：令和5年2月16日～令和8年2月15日)	可決 (異議なし)

賛否が分かれた議案

議員ごとの賛否内訳と審議結果

○…賛成 ×…反対 欠…欠席 ■…討論

―…議長 ※議長は賛否同数の場合のみ裁決を行います

議案名	議員名									審議結果
	佐藤 寧	柳原 浩之	金田 壽夫	遠藤 友宇子	溝田 昌志	嶋村 義文	福原 峯雄	長野 誠	橋詰 啓史	
【12月・第8回定例】教育委員会教育長の任命について	○	×	○	○	○	○	○	×	―	可決
【12月・第8回定例】平岡医師の再任を求める請願書について	○	×	×	×	×	○	○	×	―	不採択

第6回 総務文教常任委員会 (11月30日) 請願第2号「平岡医師の再任を求める請願について」の討論

賛成討論

○**嶋村議員** 請願趣旨にもあるとおり、平岡医師の丁寧な対応と的確な治療のおかげで多くの町民が安心感を持つことができた。また、平岡医師も町の正職員としての採用なら喜んでお受けしたいとの回答があった。他方、病院経営は危機的な状況であり、12月定例会では病院事業会計に補正予算が提出される。平岡医師に復帰していただき、病院への信頼回復に努めていただきたい。

○**佐藤議員** 平岡医師の復帰により、そこに可能性があれば在宅医療、在宅看護、在宅での看取りが大きく広がっていく。今回の請願を受け、行政側に強くその気持ちを伝えていくことが大切だと思う。町長が平岡医師の人間性を疑う趣旨の発言をしたが、逆に町長も人を見る目がないということが十分考えられる。

→採決結果 請願採択に賛成 嶋村・佐藤
反対 遠藤・金田・柳原

反対討論

●**柳原議員** 請願を起こした行動はしっかり認識し、今後の病院改革をやっていく気持ちはあるが、町長が平岡医師の人間性に疑問を持ち、人事権を持つ町長が採用の意思をはっきり表明していない以上、賛成はできない。

●**遠藤議員** 病院人事に関して議会は権限を持っていない。議会は医師の任免に介入すべきではない。また、町長が平岡医師に対し「組織として難しい」「今までの経緯から現実的に無理なのではないか」という発言もあった。一方、今回請願者の意見を聞き、病院改革を進めていかなければならないと強く思った。

●**金田議員** 仮に請願が採択になったとしても人事関係は最後は町長の判断なので、議会在どうこう言うことはできない。

賛成少数のため請願第2号は委員会
「不採択とすべきもの」と決定

第8回雄武町議会定例会 (12月9日) 請願第2号「平岡医師の再任を求める請願について」

※議長に提出された【常任委員会での審査結果(不採択)】は再び本会議の議題となります。賛成・反対それぞれの立場から討論(意見表明)を交互に行った後で採決が行われ、【採択】【不採択】のいずれかに決定します。

■溝田総務文教常任委員会委員長からの報告

委員会における経緯は10月11日～11月30日までの計6回の審査を行い、参考人からの意見を求め、委員会としても審議を重ね、様々な意見があったが、審査結果として不採択とすべきものと決定。

■長野議員から原案不採択の理由を求める質疑

溝田総務文教常任委員会委員長の答弁

①議会は人事への介入ができない ②平岡医師と院長の診察方針の違い ③今までの経緯を踏まえ、現実的に再任用は無理ではないか ④石井町長が平岡医師の人間性に対して疑問を持った 以上4点が不採択の理由となる。

賛成討論

請願第2号についての討論

反対討論

○**嶋村議員** 国保病院特別会計の補正予算案にもあるとおり、国保病院は危機的な経営状況にある。全町挙げて病院改革に取り組まなくてはならない。平岡医師は「町の正職員での採用であれば喜んでお受けする」と回答している。平岡医師に再度着任していただき、町民の国保病院の信頼回復に努めていただくことが病院改革の第一歩と考える。

○**佐藤議員** 町民の方々は不慣れな状況で請願をされ、あわせて署名活動もされていた。今回の請願で、その声を町長に直接届けるという意味は大きい。仮に平岡医師が戻ってきて国保病院に常勤医師として勤めていただければ、包括支援の延長で自宅での医療、在宅介護、看取りなども可能になってくる。そういう可能性を秘めた町民の方々の気持ちを大切にしたい。

→採決結果 請願採択に賛成 嶋村・福原・佐藤
反対 長野・溝田・遠藤・金田・柳原

賛成少数のため請願第2号は本会議

不採択

総務文教常任委員会



※町ホームページから委員会の議事録(全文)を見ることができます。

平岡医師の再任を求める請願書についての報告

令和4年9月定例会において「平岡医師の再任に向けた行動を要請する」内容の請願書が8名の町民の方から提出されました。定例会では、橋詰議長より総務文教常任委員会(溝田昌志委員長)(以下、総文委)への付託となり、6回にわたって総文委が開催されました。本ページではその内容をご報告します。

第1回(10月11日)

1回目の委員会では日程の調整とその後開催される委員会での議事内容を中心に話し合いました。12月定例会までに審査意見を出すための約2か月の間に、請願者からの意見陳述および議員からの質問、請願に関わる医療関係者及び石井町長への質疑、町民を招いた公聴会の開催などが話し合われました。請願者への質問がある総務文教常任委員がそれを提出し、10月19日にその内容を審議することになりました。

第2回(10月19日)

総文委に請願者をお招きして意見を伺い、また質問のある議員から請願者へ質問をすることになりました。第2回の委員会ではその質問内容についての協議を行いました。また、第3回の委員会で、請願の紹介議員である嶋村議員に対して質問をする場を設けることになりました。

質問事項

◆柳原議員

- (1)陳情ではなく請願という形になった理由は。
- (2)嶋村議員を紹介議員として選ばれた理由は。
- (3)幻の請願書(4月)作成以降の署名活動や請願書提出(7月)までの経緯と考え方は。

(4)請願を提出することによるメリットとデメリットを教えてください。

◆遠藤議員

- (1)平岡医師の再任を求める請願書について署名活動もされていたと思うが、どのような活動でしたか。
- (2)500名の嘆願書ではなく、9月定例会での8名による請願書提出に至った経緯は。

◆金田議員

- (1)平岡医師が請願要求があったにもかかわらず雄武町に来ない場合はどうお考えか。

第3回(10月28日)

紹介議員である嶋村議員に対する議員からの質問が行われました。

最初に嶋村議員から請願者の紹介議員になった経過説明があり、その後、柳原議員、遠藤議員、金田議員からそれぞれ質問がありました。紙面の関係上内容は議事録を議会ホームページに掲載いたしますので、そちらをご覧ください。

また、柳原議員から「請願に署名を添えて」という文言の確認のため、次回の委員会に提出先である橋詰議長と山崎議会事務局長の参加を求めました。

第4回(11月1日)

最初に、柳原議員から請願書に署名を添えて提出されたか否かの意見が出たので、提出先である橋詰議長と山崎議会事務局長に発言を求めました。橋詰議長は「請願に署名を添えて」

という文言は気にはなったが、議長会に諮ったところ、請願書に列記した氏名が請願提出者となるという議長会の判断によって、8名の署名と捺印した方を署名者として認識し受理したという回答でした。

山崎議会事務局長も500名の署名を紹介者の嶋村議員に確認はしたが、今回の請願書には添付せず、記名押印した方を請願者と判断し受理したという回答でした。

その後出席された請願者から請願に至った経緯を含め、質疑応答が行われました。当日出席できなかった請願者の伴喜和子さんからは総文委宛に手紙をいただきました。

質疑応答に関しては長時間にわたりましたので、議事録を議会ホームページに掲載いたします。請願者のおひとりである葛西礼子さんから、「国保病院の問題をこのような形で表面化させることで、風通しのいい雄武町にしたい。議会も町民とのパイプ役として重く考えてほしい」というご意見をいただきました。

第5回(11月11日)

平岡医師から町の正職員としての採用であれば喜んで受けるという回答が読み上げられ、その後石井町長への質問が行われました。質問者は嶋村議員、佐藤議員、柳原議員、金田議員、遠藤議員でした。質疑応答に関しては長時間にわたりましたので、議事録を議会ホームページに掲載いたします。

9月

13～16日	第6回定例会開催
22～25日	令和4年度武雄市物産まつり(佐賀県武雄市)出席、議長ほか3名
30日	旗の波運動出席、議長

10月

1～2日	鈴木宗男・鈴木貴子第17回北海道セミナー(札幌市)出席、議長
11日	第13回広報特別委員会開催
//	第1回総務文教常任委員会開催
14日	林-ツ圏活性化期成会石北本線・上川地方総合開発期成会第6回石北線合同会議(遠軽町)出席、議長
15～16日	陸上自衛隊北部方面隊創隊70周年記念行事(札幌市)出席、議長
17日	第14回広報特別委員会開催
18～20日	令和4年度遠紋地区市町村議会議長会道内行政視察(札幌市、北広島市、白老町)出席、議長
19日	第2回総務文教常任委員会
21～22日	オホーツク圏活性化期成会秋季要望(札幌市)出席、議長
21日	管内選出北海道議会議員との意見交換会(札幌市)出席、議長
24日	第15回広報特別委員会開催
//	第12回議会活性化調査特別委員会開催
26～27日	常任委員会合同道内視察研修(池田町、白糠町)
28日	第3回総務文教常任委員会開催
//	全員協議会開催
31日	第46回北海道都市問題会議(紋別市)出席、議長

11月

1日	第4回総務文教常任委員会開催
2日	議会運営委員会開催

議 会 日 誌

//	議会運営委員会拡大会議開催
//	第13回議会活性化調査特別委員会開催
3日	雄武町栄典表彰式出席、議長外6名
4～5日	第1回参議院議員船橋利実政経セミナー(札幌市)出席、議長
8～10日	第66回町村議会議長全国大会(東京都)出席、議長
8日	衆議院議員 武部新代議士との懇談会(東京都)出席、議長
11日	第5回総務文教常任委員会開催
12日	令和4年度自民党移動政調会(北見市)出席、議長
13日	沢木小学校学芸会出席、議長
15～17日	高規格道路旭川・紋別自動車道早期建設促進期成会要望(東京都)出席、議長
18～20日	益子町民まつり(栃木県益子町)出席、議長ほか1名
23日	雄武神社勤労感謝祭出席、議長
25日	第7回臨時会開催
//	第14回議会活性化調査特別委員会開催
30日	第6回総務文教常任委員会開催

12月

1日	全員協議会開催
2日	議会運営委員会開催



編集あとがき

年が明けるとともに後期高齢者となった。役場から後期高齢者医療被保険者証が送られてきて、改めて認識することになった。後期高齢者医療制度とは、高齢者の医療を国民全体で支える医療制度とのことで、高齢者が増加すると現役世代の負担が増える制度といえる。今後どのような制度になるのだろうか。高齢者といえども資産および収入のある人はいふのだから、相応の負担を求めないと制度の維持は難しいだろう。健康で活動的な高齢者もたくさんいる。社会活動に参加してもらおう仕組みも必要な時代と考える。

内館牧子の小説「老害の人」が話題となっており、早速図書館より借りて来て読んでみた。85歳の主人公、福太郎の豪快な老害ぶりが愉快だ。自分を顧みても似たような老害ぶりがあるのだろうかと思う。逼塞した元氣のない老人よりは迷惑と思われる。でも、元氣な老人でいたいものだ。

議会広報特別委員会

委員 嶋村義文